



紙かデジタルか



「デジタルよりも紙の書籍で読んだ方が、内容の自然な理解が進む」東京大学大学院の研究チームがアメリカの科学誌「PLOS One」に発表したコメントです。漫画を紙の本とデジタル書籍でそれぞれ読ませた後に脳活動を調べたところ、紙の方が活動を少なくする省エネ化が見られたそうです。さらに内容も、紙の方が記憶として留めていることが分かりました。一頁ずつめくりながら読む行為そのものが脳の記憶や活動に大きく影響を与えているとのことで、このめくる一秒にも満たない僅かな時間で脳がきちんと内容を咀嚼していると判断されました。

私も本が好きなことをこれまでいくつか紹介してきましたが、本は、読み続けていくと残りの頁の厚みで終わりが見えてくるため、推理小説などは、そろそろアリバイが崩れる頃かななどと勝手な妄想も本の楽しさを倍増させていたと思います。

令和8年6月10日の参院本会議で「デジタル教科書」を正式な教科書とする改正学校教育法が可決し、数年後には、使用が始まるとのことです。電子化により、図や文字を拡大させたり、実験動画や英語の発音を視聴できたりするなど、直感的で深い学びが期待されています。

思い起こせば小学生の時、「もうこれ以上は入りません!」とランドセルの悲痛な叫び声が聞こえるくらいに教科書やノートを詰め込んで通学していたこと、掲載された作者や偉人の写真に髭を塗り込んだり、戦国武将や海賊が付けている眼帯を付け加えて、友だちと見せ合ったりしたことなど、懐かしい思い出です。また、漫画好きな私は、読みたい気持ちを抑えきれずに漫画本を教科書に挟み込んで授業を受けてしまったことがあります。残念ながら、一人笑みを浮かべている私に気が付かないはずがありません。「ここは笑う所じゃないだろう!」と先生に大声で怒鳴られ、漫画本を取り上げられてしまいました。休み時間に職員室へ行った時、私から取り上げた漫画本を大声で笑いながら読んでいる先生を見て、理不尽だと感じたことは言うまでもありません。このような悪戯や失敗は、紙の教科書だからこそ、経験できることのような気がします。

さて、本校がDXハイスクール校として文部科学省から採択され2年目を迎えました。各教科においては、ICT機器を駆使した写真や動画での説明など、ビジュアルコンテンツの活用が抽象的な概念を具体的な理解へと促す強力なツールとなっています。人間の脳は、文字情報よりも早く視覚情報を処理するとのことから、特に、若手教員がデジタル世代の強みを生かし、生徒の小さな好奇心に火を付けています。読み書きに必要な文房具やテキストがペーパーレス化されても学びの基本は変わらないとは理解しますが、頁をめくる感触、重要箇所に赤で印を付け、漢字の意味が分からなければ空いているスペースに意味を書き足すなど、手で書き、目で追う身体的な習慣が学習の定着に深く関わっている、紙にしかない利点の再評価も必要だと思うのです。

令和8年6月下旬、期末考査まであと数日となりました。教室を覗くと「教科書四十頁を開いてみて!ここ要チェックだよ!前回の授業で理解したよね、三十頁の内容と合わせてチェックしてあった?テストに出るぞ!線を引いておいてよ!」教師の声にも熱が入り、生徒もその声に導かれるように教科書に全集中すると、ペラペラ、ササササ、教科書の頁をめくる音にならない音が心地良い学びの匂いを教室中に充満させていました。

紙かデジタルか、この論争は、しばらく続くと思いますが、日々の生活がデジタル化されている今、せめて「読む・書く」は、アナログな生き方であってほしいと願うのです。

令和8年7月

